

Part 2 振興事業

「振興事業」は、環境NGO・NPO活動の持続的な発展に向けて、調査研究、研修、情報提供をおこない、活動の一助となることをめざします。

1 若手プロジェクトリーダー研修

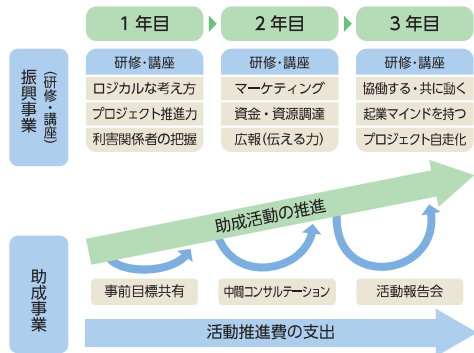
今後の環境活動を担う若手の人材育成の重要性がますます高まっている中、地球環境基金では若手プロジェクトリーダーの育成支援をしています。3年間にわたり活動推進費を助成するとともに、リーダーシップを発揮し、環境保全活動の持続的な発展に貢献できる人材を育成するための研修もおこなっています。

2018年度
受講者数 計22名
3期生8名
4期生7名
5期生7名

●研修内容

受講生が、環境NGO・NPO活動の継続的な発展に向けて、多様なステークホルダーと関わりながらビジネスモデルの構築ができる人材となることを目標としています。

●支援プログラム・体制



●3年間の研修概要

	7月	10月	1月
1年目	プロジェクトを体系的に理解し、推進することができる		
	●NPOの活動計画策定 ●ロジックツリーを用いた計画立案	●プロジェクトマネジメント	●合意形成
	成果をアピールし、熱心な支持者を獲得できる		
2年目	●NPOのマーケティング	●ファンドレイジング(資金・資源調達)	●NPOの広報
	人々を巻き込み、影響力を持続させることができる		
3年目	●ステークホルダーとの協働		
	〈フィールド実習〉 ●地域を巻き込む力 ●相互理解の促進と組織のガバナンス形成	●3年間の振り返り、成果・課題の明確化 ●次年度以降のアクションプラン ●プロジェクトの自立化	



プロジェクトマネジメント研修(5期生)



ワークショップ(4期生)



フィールド実習 in 岐阜県東上市(3期生)

研修生の声



(特刊) 日本国際環境基金
比留間美帆さん

ロジックツリーやステークホルダーマップづくりで事業の課題や今後の可能性を可視化すること、また情報発信の対象やタイミングを見極める大切さなど、多くの学びを得ました。当初は自信がなく、活動内容や自分のことを人に話すことが苦手でしたが、少しずつ本音で話す抵抗感がなくなっていったと実感しています。



(特刊) 詩ノ舞の森クラブ
大石淳平さん

多様な地域・分野のプロジェクトを進める同期たちと交流し、多くの気づきや刺激を受けました。また、事業の進行や課題へのアプローチなど、貴重な情報交換もできました。研修を通じて、活動地域に入り込みたいという思いが芽生え、移住を決意しましたが、地元の皆さんから、より協力を得られるようになりました。

2 海外派遣研修

環境分野での国際協力を志すユース世代の育成を目的として、地球環境基金では「環境ユース海外派遣研修」を実施しています。開発途上国におけるSDGs達成に対する取り組みや課題の解決について、現場で直接学ぶ機会を通して、現地における環境問題の現状を深く理解し、今後の環境保全活動に役立つ知識や技術の習得をめざします。

●研修内容

研修地 インドネシア
(ジャカルタ、西ジャワ、北スマトラ)

日程 長期コース 2019年2月10日(日)～3月1日(金)の20日間
短期コース 2019年2月19日(火)～3月1日(金)の11日間

日程	訪問先	プログラム内容
2/10(日)	長期研修生出発：日本→ジャカルタ	—
2/11(月)	国家開発企画庁SDGs統括事務局	インドネシアにおけるSDGs国家計画の概要を学びました。
2/12(火)	JICA インドネシア事務局 UNDP インドネシア事務所	日本や国連機関による国際協力の現状や課題を学びました。
2/13(水)	NYFP Indonesia/Borneo Chic	はちみつやラタン(籐)などの自然の恵みを活用した商品の生産・販売を通じた環境保全と生計上の両立を実現している事例を学びました。
2/14(木)	グヌン・ハリムン・サラック国立公園(GHSNP)	GHSNPではアグロフォレストリーやエコツーリズムなどの住民参加型の国立公園管理がおこなわれています。ここではエコツーリズムの体験や地域住民との意見交換を通して、国立公園における課題と対応を学びました。
2/15(金)	—	—
2/16(土)	研修前半ふりかえり	研修前半の学びをふりかえりました。
2/17(日)	—	—
2/18(月)	休息日	—
2/19(火)	ジャカルタ湾岸マングローブ植林地 短期研修生出発：日本→ジャカルタ	マングローブの伐採、エビ養殖地への転換、放棄までの環境劣化の過程を学ぶとともに、地域住民によるマングローブ林再生の取り組みを学びました。
2/20(水)	AMAN (インドネシア先住民ネットワーク)	ネットワーク型NGOの存在意義や活動内容について学びました。また、研修生は日本における環境活動の事例を紹介し、意見交換をおこないました。
2/21(木)	西ジャワ環境局 チャタルム川流域管理事務局	2017年「世界でも最も汚染された川」に選ばれたチャタルム川流域において国家プロジェクトとして実施されている流域環境改善の取り組みを学びました。
2/22(金)	PT.Putra Mulya Terang Indah	チャタルム川流域の環境改善に向けて先端技術の導入や植林活動を通して環境改善に取り組む地元繊維工場の実例を学びました。
2/23(土)	協同組合 Bangkit bersama	チャタルム川流域において地域住民が主体となり、ゴミの収集と再利用を目的として設立された組織です。ゴミ銀行の活動事例や行政、地元企業との連携について学びました。
2/24(日)	グヌン・ルーセル国立公園(GLNP)	GLNPは、かつて森林伐採で暮らしていた住民が、観光ビジネス実施を通じて環境保全に関わるようになった好事例です。エコツーリズムの体験や地域住民との意見交換を通して、事業実施に至る合意形成のプロセスや住民参加型の国立公園管理の実例を学びました。
2/25(月)	—	—
2/26(火)	—	—
2/27(水)	アクションプランづくり	研修での学びをふりかえるとともに、国際環境保全活動のアクションプランづくりを通して、企画提案能力の習得をめざしました。
2/28(木)	—	—
3/1(金)	長期・短期研修生帰国：ジャカルタ→日本	—



インドネシア国家開発企画庁を訪問



現地住民が発案したエコツアープログラムを体験



マングローブ植林地を、ボートに乗って見学



豊かな自然が色濃く残る、グヌン・ルーセル国立公園

研修生の声



斎藤汐里さん

とくに印象に残っているのは、集約型のエビ養殖場を、環境負荷の低い養殖とマングローブの植林を組み合わせた方法に変更した、企業の取り組みです。環境問題の改善には、さまざまなアクターの参加が必要だと感じていましたが、現場を見て企業のCSRや、NGO・NPOとの協働にあらためて興味をもちました。



寺本晃太郎さん

インドネシアの国立公園でエコツーリズムに参加し、現地の自然を学びながら「自然と人の共生」を実現する事例を見ました。一方、日本の企業が、工場からの汚水や廃棄物で環境を汚染したり、原料のパーム油のために熱帯林を大規模伐採する現状も目の当たりにして、私たちの生活が遠く離れた国の環境に及ぼす影響も実感しました。